

# 積雪寒冷地での被災生活を支える北海道型応急仮設住宅

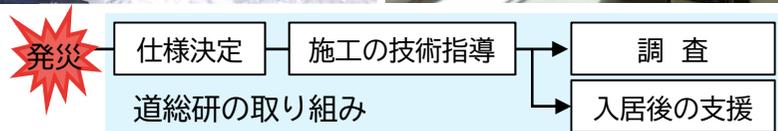
## 背景

- ・大規模災害の発生後、被災者が恒久的な住宅を確保するまで安心・安全に生活できる応急仮設住宅が必要です。
- ・北海道が速やかに応急仮設住宅を建設するためには、積雪寒冷地の生活に対応した「北海道型」仕様の事前確定、被害想定に基づく建設必要戸数を踏まえた供給計画が必要です。

胆振東部地震における「北海道型応急仮設住宅」

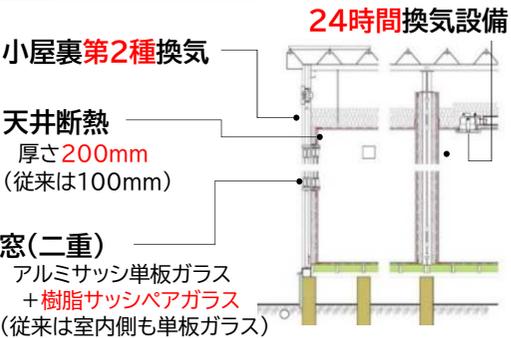


被災3町で208戸建設



## 成果

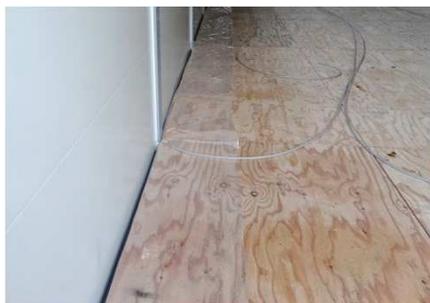
### 1 「北海道型応急仮設住宅」を開発



新たに採用した仕様

結露、水道管凍結の防止

### 2 施工方法などの改善



床の防湿フィルムの省略など

断熱性能の確保、施工合理化

性能・効果の検証(現在も継続中)

北海道の標準仕様に反映

### 3 入居者による室内環境の改善行動を誘導



室内の結露発生を抑制

### 4 建設必要戸数を事前に推定

道の地震被害想定による  
全壊・半壊戸数

過去の災害  
の建設実績

必要戸数の推定式  
市町村の人口規模別の式

全道市町村の  
建設必要戸数の推定

供給体制の検討(継続中)

北海道の供給計画へ反映

## 期待される効果

○北海道の応急仮設住宅の供給計画などに反映されることで、被災者が安心・安全に生活できる応急仮設住宅を、災害発生後に迅速に建設する事に貢献します。